

吹田市との官学連携PBLの授業記録

2025 PBL SUITA CITY×OSAKA GAKUIN UNIVERSITY
PROJECT-BASED LEARNING



[課題提示部署] 児童部 子育て政策室／都市魅力部 シティプロモーション推進室

教育開発支援センター

目 次

キャリア教育と PBL	1
「キャリアデザイン入門Ⅰ」の担当教員紹介.....	2
吹田市都市魅力部シティプロモーション推進室について	3
吹田市からの課題提示.....	4
児童部子育て政策室からの課題提示（説明スライド）	5
都市魅力部シティプロモーション推進室からの課題提示（説明スライド）	6
吹田市との官学連携 PBL 課題解決発表会の進行表	8
学生発表データ	
ラファエルエリアス（児童部子育て政策室）	11
チームB（児童部子育て政策室）	13
脇ッ子・クロスクラブ（都市魅力部シティプロモーション推進室） ..	15
未来Cross（都市魅力部シティプロモーション推進室）	17
吹田市からの講評	
児童部子育て政策室	19
都市魅力部シティプロモーション推進室	20
授賞式.....	21
学生サポーター制度の導入と教育効果	22
大阪学院大学「吹田市との官学連携 PBL」に寄せて	
吹田市都市魅力部長 脇寺 一郎 氏	24

キャリア教育とPBL



教育開発支援センター所長
後藤 登教授

吹田市の職員の皆さん、2025年度も官学連携PBLにご協力いただきまして誠にありがとうございます。

教育開発支援センターでは、学生たちが大学で学んだ専門知識や理論を実社会で活用できるように、キャリア教育において、2016年度から吹田市との官学連携PBLをはじめ大阪や神戸にある企業との産学連携PBLを開始し、公式ホームページに特集「OGU PBL」を設け、PBL学習法の成果を発信しています。学生たちは課題解決に向けて、情報の収集・分析・解決の道筋や構想を練ることで、「学問と社会・産業のつながり」を深く考えることになります。

2025年度後期開講の「キャリアデザイン入門Ⅰ」において、「児童部 子育て政策室」から、「どうすれば自分たち学生は市役所に意見を言いやすくなるか?」との課題、「都市魅力部 シティプロモーション推進室」から、「市民主体の魅力発信『吹田クロス』を広めるには」との課題が提示されました。これはひとえに都市魅力部シティプロモーション推進室のご調整によって実現したものと大変感謝いたしております。

教育開発支援センターは今後も学生が主体的に学修するPBLを推進します。

2024年度の官学連携PBL

「キャリアデザイン入門Ⅰ」を受講する1年次生は毎年、吹田市からの行政課題に対してグループで課題解決に取り組んでいます。2024年度は「市民部 人権政策室」から、「平和について若い世代にもっと興味関心を持ってもらい、吹田市立平和祈念資料館の集客につなげていくにはどうすればいいか」との課題、「消防本部 総務予防室」から、「若い人材の消防団加入促進について」との課題が提示されました〔2024年10月30日(水)〕。

吹田市との官学連携PBLの課題解決発表会を開催しました。1年次生のグループから6つの課題解説が発表されました。この発表会に参加した全員の投票の結果、「人権賞」にチーム「大梨」(おおなし)が、「消防賞」にチーム「iPhone」が選ばれ、後藤教育開発支援センター所長から記念品が贈られました〔2024年12月11日(水)〕。



課題解決発表会に参加した吹田市職員（左：市民部人権政策室、右：消防本部総務予防室）

上：人権賞「大梨」、
下：消防賞「iPhone」

「キャリアデザイン入門Ⅰ」の担当教員紹介



中 則夫 Naka, Norio

国際学部 准教授／教育開発支援センター 所員

【専門分野】英語教育学、テスト理論、言語心理学

E-mail : naka@ogu.ac.jp

略歴

学歴・取得学位

慶應義塾大学 文学部 文学科 卒業 学士

大阪大学大学院 言語文化研究科 博士課程 単位取得退学 修士（言語文化学）

主な職歴

大阪学院大学 国際学部 講師

大阪学院大学 国際学部 准教授

所属学会

日本発達心理学会、日本教育心理学会、言語科学会、社会言語科学会、英語コーパス学会

研究課題

大学英語教育におけるプレースメントテストシステムの開発

英語語彙学習方略および e-learning システムの開発

主な研究業績（著書・論文等）

Acquisition of Grammatical Categories: Role of Physical Objects (論文) Studies in Language Science 1 2000.08. The acquisition of causative morphology in Japanese: A prototype account. (論文) Kuroshio Publishers 2001.09

講義など協力可能なテーマ

英語講読、時事英語、英文法、英作文など、言語発達、言語学入門、文系のための基礎統計学

吹田市都市魅力部シティプロモーション推進室について

吹田市では持続的なまちの発展をめざして、吹田市が持つ魅力を積極的に発掘・発信し、「住み続けたい」・「離れてても戻りたい」といった愛着や誇りを醸成するための取り組みとなるシティプロモーション事業を実施しています。

吹田市が取り組むシティプロモーションは、「吹田市シティプロモーションビジョン」に基づき、市外からの移住促進を主な目的とせず、在住・在勤・在学の全市民を対象として、様々な暮らしの場面に応じた取り組みを戦略的に展開していきます。

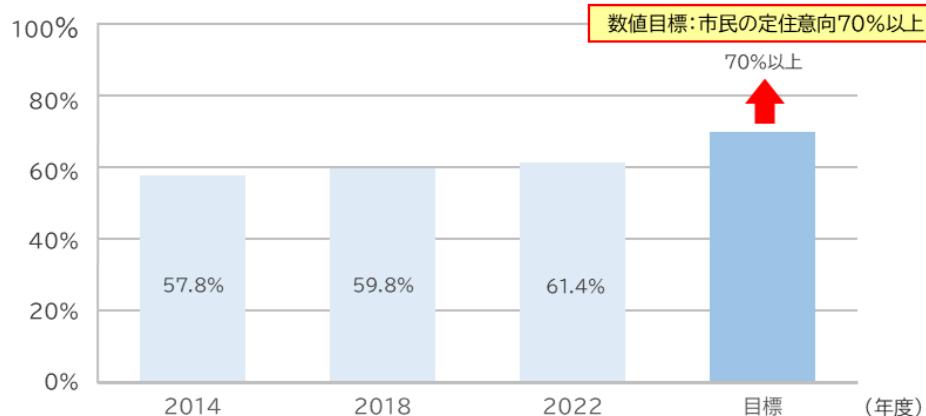


吹田市役所（吹田市泉町1丁目3番40号）

「定住意向70%以上」を数値目標に設定

本市が実施している市民意識調査の「今住んでいるところが気に入っているので、住み続けようと思っている市民の割合」である定住意向の項目を指標におくものとし、「定住意向70%以上」を数値目標に設定します。

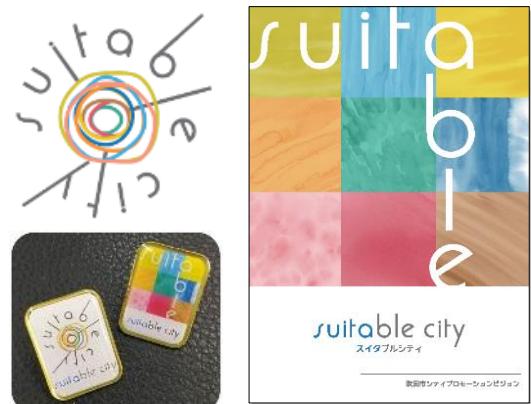
本市の定住意向の推移



吹田市シティプロモーションキャッチフレーズ「suitable city（スイタブルシティ）」

suitable city（スイタブルシティ）は「～できる」といった意味の接尾辞である「able」を吹田「Suita」につなげることで、「吹田で実現できる」の意味を持たせるとともに、「ふさわしい、ぴったりの」などの意味を持つ「suitable」と重ね、「暮らすにはぴったりなまち」の意味を持つ造語です。

さまざまな魅力が揃う吹田市でのより豊かな暮らしを実現し、市民にとって愛着や誇りが持てるまちをめざします。



吹田市からの課題提示

児童部 子育て政策室

課題「どうすれば自分たち学生は市役所に意見を言いやすくなるか考えよ！」

「国や自治体の制度や政策について思ったことや意見を、国や自治体に伝えたいと思いますか」というアンケートを行ったところ、7割近くの子供・若者が「そう思う、ややそう思う」と答えました。一方で、子供・若者が国や地方自治体に意見を伝えたいと思わない一番の理由は「意見を伝えても反映されないと思うから」でした。どうすれば子供・若者は市役所に意見を言いやすくなつて、その意見を市役所の仕事に反映させることができるか、皆さんのアイデアをお聞かせください！

【背景】

- ・令和5年4月に施行されたこども基本法には、全ての子供について自己に関する全ての事項に関して意見を表明する機会が確保されることが基本理念として謳われています。（法第3条第3号）また、子供施策（※）を策定、実施、評価するときには、子供・若者、子育て当事者等の意見を反映するために必要な措置を講ずることを地方自治体に義務付けています。（法第11条）
 - ・本市では、令和7年3月に吹田市こども計画を策定し、子供・若者がその年代に応じて、その思いや意見を述べができる機会の確保等、意見表明の仕組みづくりを進めると位置付けました。（基本目標1 施策1）
 - ・子育て政策室では、令和7年度より子供・若者の意見表明の仕組みづくりの検討を進めており、どうすれば市役所に意見を言いやすくなるか、実際に学生の方々からアイデアをいただきたいと考えております。
- （※）子供施策：子供の健やかな成長に対する支援や、結婚・妊娠・出産・子育てに対する支援を目的とする施策に加え、教育施策や雇用施策、医療施策等、幅広い施策が含まれる。

都市魅力部 シティプロモーション推進室

課題「市民主体の魅力発信『吹田クロス』を広めるには」

吹田市では、「暮らすにはぴったりなまち」「吹田で実現できる」という意味を込めた「suitable city（スイタブルシティ）」をキャッチフレーズに、市民ひとりひとりがそれぞれに応じた豊かな暮らしを実現し、愛着や誇りをもってもらえるまちを目指してシティプロモーション事業を推進しています。

そして、大阪・関西万博を契機とし、これまでの行政主体型のシティプロモーションのみならず、市民がより主体となり、新たな魅力が創造・発信されるまちとなるよう市民主体型のシティプロモーション「suitable city みんなで躍動プロジェクト」に取り組んでいます。

令和6年度には、本プロジェクトの一環として、様々な方々に、本市のあらゆるヒト・モノ・コトを掛け合わせたアイデアを発信してもらい、新たな魅力が創造・発信されることを目指す市民共有型のロゴマーク「吹田クロスロゴ」を制作し、これまで「吹田クロス」を活用したイベントを開催してきました。

また、「吹田クロス」をより身近に感じてもらえるようSNS（Instagram）の運営も行っています。

ただ、「吹田クロス」というもの自体があまり知られていないのが現状です。

そこで、どうすれば「吹田クロス」を市民に広めることができ、本来の形である「市民主体型」になるのか考えていただきたいです。特に今回はSNS（Instagram）の運営について意見を聞かせてください。現在は、吹田クロスに関するイベントの告知や「クロスびと（吹田クロスを活用して魅力を創造・発信しているひと）」の紹介をしていますが、今後は#吹田クロスを通して市民が投稿したものを紹介したり、実際にクロスしている様子を取材していくようなアカウント運営にしていきたいと思っています。

児童部子育て政策室からの課題提示（説明スライド）

令和7年（2025年）10月
大阪学院大学 「キャリアデザイン入門」

**どうすれば
自分たち学生は
市役所に意見を
言いやすくなるか**

吹田市児童部 子育て政策室

市役所の仕事で子供・若者に関わる内容とは何でしょう？

妊娠出産	子育て	教育	保育園	公園
道路	住宅	環境	雇用	介護
図書館	観光	医療	貧困	

市役所の仕事に対して意見を伝える主な方法

- ✓ 直接、担当部署に電話やメールをする
- ✓ 市民の声（HPにあるフォームに入力）を送る
- ✓ **パブリックコメント**で意見を送る
- ✓ 審議会の市民委員になる

※上記の他、市政に対する要望や意見を市議会に提出する「請願」や「陳情」というものもあります。

吹田市で昨年度に実施されたパブリックコメント（一部）

案件名	意見通报	意見総数	担当部署
吹田市公民館条例施行規則の一部改正	0通	0件	まちびの支援課
地域コミュニティ交通導入ルートライン（案）	1通	1件	総合交通室
中学校の企画食への向けた基本計画案	129通	238件	教育未来創造室
吹田市保育料等利用調整基準改正案	3通	5件	保育幼稚園室
吹田市立博物館 第4次中期計画案	4通	14件	文化財保護課
吹田市手帳公認の普及及び障害者の高齢認証手帳の利用を促進する条例修正案	118通	259件	障がい福祉室
吹田市景観とまちづくり計画を推進するための景観形成基準取扱要領の一部改正の件	0通	0件	都市計画室
吹田市こども市（来年）	67通	171件	子育て政策室
（仮称）吹田市空き家対策計画2025（案）	2通	13件	住宅政策室

審議会等に市民が参加できることを知っていますか？

- 1 政策等の案や関連資料を公表します。
- 2 政策等の案に対する市民のみなさんのご意見を募集します。
- 3 お寄せいただいたご意見を考慮して政策等を定めます。
- 4 お寄せいただいたご意見とともに市の考え方を公表します。

吹田市で設置されている審議会等（一部）

名前	所属課室
吹田市子ども・子育て支援審議会	子育て政策室
吹田市青少年問題協議会	青少年室
吹田市情報公開運営審議会	市民総務室
吹田市地域公共交通協議会	総務交通室
吹田市男女共同参画審議会	男女共同参画室
吹田市民自治推進委員会	市民自治推進室
健康まちづくり推進会議	健康まちづくり室
吹田市シティプロモーションアドバイザーミーティング	シティプロモーション推進室

子供・若者の意見を表明する意欲

■子供・若者が対象に行ったアンケートでは、国や地方自治体の制度や政策について7割近くの子供・若者が意見を伝えたいという意見表明意欲がある。

回答	割合
そう思う	33.6%
ややそう思う	34.8%
あまり思わない	21.5%
そう思わない	5.8%
その他（分からない、答えない）	4.3%

皆さんのアイデアをお聞かせください！

- ✓ こんな意見の聞き方をしてほしい！
- ✓ こうしたらもっと意見を伝えられるのに！
- ✓ こんな方法なら市の仕事をよく知ることができる！
- ✓ 普段意見を言わない人でもこうしたらいいんじゃない？
- ✓ 審議会に応募したいけど、ハードルを下げてほしい！
- ✓ パブリックコメントはもっとこうしてほしい！
- ✓ せっかく意見を出したらこんなことをしてほしい！
- ✓ こんな場所があればいい！
- ✓ 友達とまちづくりについて話し合う機会がほしい！

**どうすれば
自分たち学生は
市役所に意見を
言いやすくなるか**

国や地方自治体に意見を伝えたいと思わない理由

■一方、子供・若者が国や地方自治体に意見を伝えたいと思わない一番の理由は、意見を伝えても反映されないとと思うから。

理由	割合
あまり思わない「そう思わない」と回答した人に對して理由を尋ねる調査	18歳以上を対象とする
自分の意見が反映されない	31.8%
国や自治体に意見を伝えると困るから	3.7%
国や自治体に自分の意見を伝えるのはいいと思うから	5.4%
国や自治体に意見を伝えるのが面倒だから	8.8%
国や自治体に意見を伝えるのが面倒だから	10.0%
国や自治体に意見を伝えるのが面倒だから	15.7%
自分の意見が反映されないから	23.4%
国や自治体に意見を伝えるのが面倒だから	24.5%
国や自治体に意見を伝えるのが面倒だから	29.4%
国や自治体に意見を伝えるのが面倒だから	34.1%
国や自治体に意見を伝えるのが面倒だから	34.7%
国や自治体に意見を伝えるのが面倒だから	40.3%

**どうすれば自分たち学生は市役所に意見を
言いやすくなるか考えよ！（吹田市 児童部 子育て政策室）**

☆尼崎市の取組をチェックしてみよう！こんなサイトがあればどうかな？

【URL】<https://amagasaki-city.liqid.jp>

QRコード

● 学生にとって意見が言いやすい環境って？オンライン？ワークショップ？学校の授業？

● 市役所に意見を言には、どういった手段を利用できそう？メール？LINE？投票？

● パブリックコメントって？この仕組みは学生にとって使いやすいかな？どうすればいいかな？

● どうやったら自分たち学生は市役所の仕事に関心を持てるのか？

● 意見を言いたくて言えない人はどうやったら言えるかな？

● 意見を出しても反映されないこともあるよね。どうすれば得できる？

● 自分たちが楽しめれば意見をどんどん言いたくなるかも？

都市魅力部 シティプロモーション推進室からの課題提示 (説明スライド)

課題提示イベントの様子



2025年度後期開講の「公務員入門」（1年次配当科目）への講師招聘について

1. 講師の招聘の科目と講演時間 … 「公務員入門」火曜日・3講時 13:30～15:15
2. 場 所 … 15号館 01-04 教室
3. 講師招聘日 … 2025年12月9日（火）
4. 内 容 … 「都市魅力部地域経済振興室（農業担当）」「地域教育部 青少年室」の職員による講演

吹田市職員の招聘（結果報告）

吹田市との連携協定に基づき、2025年度後期開講の共通科目「公務員入門」において、吹田市 都市魅力部 地域経済振興室（農業担当）および地域教育部 青少年室の職員をゲストスピーカーとしてお招きし、業務内容や取り組みについてお話を伺いました。

地域経済振興室（農業担当）からは、市内農地が市域約3,600ヘクタールのうち約50ヘクタールにとどまり、農地所有世帯も約0.2%と少ない都市部特有の課題を踏まえながら、農地保全や農業者支援、地産地消の推進、農作業体験事業などの取り組みについて紹介されました。あわせて、吹田市のイメージキャラクター「すいたん」のモチーフであり、なにわの伝統野菜である「吹田くわい」の特徴や栽培の難しさ、江坂朝市・ハピスマ朝市、市民農園、学童農園等を通じた市民参加型の施策について説明があり、学生がボランティアとして参画できる機会も紹介されました。青少年室からは、「子育て・青少年拠点 夢つながり未来館（ゆいぴあ）」を拠点とした居場所づくりや、子ども・若者総合相談センター「ぶらっとるーむすいた」での相談支援、放課後の居場所事業等が紹介されました。また、「さわやか元気キャンプ」や「太陽の広場」など、地域全体で子ども・若者の成長を支える取り組みや、見守りボランティアの募集についても説明がありました。



官学連携PBL 課題解決発表会

教育開発支援センター

中 則夫准教授の Project Based Learning



教育開発支援センター所長
後藤 登

教育開発支援センターでは、学生たちがそれぞれの学部で学んだ専門知識や理論を実社会で活用できるように、2016年度から産学連携PBL・官学連携PBLを開始しました。課題と向かい合い、情報の収集・分析を通じて、解決の道筋や構想を練ることは、「学問と社会・産業のつながり」を深く考えることができます。



児童部 子育て政策室

どうすれば自分たち学生は市役所に意見を言いやすくなるか考えよ！

子供・若者の約7割が国や自治体に意見を伝えたい一方で、「言っても反映されない」と感じる声が最も多いことが分かりました。こども基本法では意見表明の機会確保が自治体の責務とされており、吹田市も意見表明の仕組みづくりを進めています。どうすれば市役所に意見を言いやすくし、その声を施策に反映できるか、皆さんのアイデアをお聞かせください。

都市魅力部 シティプロモーション推進室

市民主体の魅力発信「吹田クロス」を広めるには

吹田市は「suitable city」を掲げ、市民主体で魅力を発信する「吹田クロス」を進めていますが、まだ十分に知られていません。特にSNS(Instagram)の運用について、どのような投稿内容や工夫があれば市民に広く届き、「市民主体型」の取り組みとして根付くと思うか、皆さんの意見を聞かせてください。

2025.12.10 課題解決発表会 発表の順番

発表順	チーム名	課題	メンバー			
1	ラファエルエリアス	子育て	25HA0008 菊川 穂華	25BA0036 宇津 徳真	25BA0111 田中 昇	25BA0125 小西 隆介
			25HA0081 中川 日菜乃			
2	チームB	子育て	25HA0121 杉崎 敬祐	25S 0060 早田 悠斗	25S 0067 末富 翔太	
3	脇ツ子・クロスクラブ	吹田クロス	25C 0117 脇迫 慶来	25BA0001 桑田 祐剛	25BA0211 杉林 蹤斗	25HA0068 岡山 きらり
			25HA0104 野坂 美月			
4	未来Cross	吹田クロス	25BA0164 渡邊 榛太	25C 0011 辻本 奏月	25BA0131 北野 もも	25BA0155 石川 晴翔
			25HA0059 吉野 結花			

吹田市との官学連携 PBL 課題解決発表会の進行表

「キャリアデザイン入門Ⅰ」2025年12月10日(水)

於：2号館地下1階03教室

司会進行：教育開発支援センター 金崎課長

(起立をお願いします。) 皆様、おはようございます。

それでは、2025年度「キャリアデザイン入門Ⅰ」の「吹田市との官学連携PBL」課題解決発表会を開催します。

今回、吹田市の2つの部署から2つの課題が出されています。「児童部 子育て政策室」、「都市魅力部 シティプロモーション推進室」からの課題に対し、1年次の受講生の皆さんに、これまで、グループごとに一生懸命に課題解決に取り組みました。そこで、本日はグループごとに課題解決の成果を発表いただきます。



開会の挨拶：後藤 登所長



皆さん生きる社会では、多くの困難と対峙するでしょう。その時、大学で学んだ知識を活用して、それらの困難を乗り越えてほしいと思います。そのためには、状況を分析し、問題解決するためのプロセスをチームで共有することが大切です。問題解決までの長い道のりをみんなと考えながら行動し、協働する体験が、きっと4年間の学びに役に立つことでしょう。今日は、皆さん

が苦労しながら築き上げた課題解決の成果を、自信を持って発表してください。

授業の進行	担当者	時刻	内容・留意点
0. 授業前	金崎	事前配付	記録メモ、投票用紙
1. 開会	金崎 後藤所長…開会の辞	11:00 (5分) 11:05 (2分)	司会 挨拶 (2分程度)
2. 課題解決発表	中 国際学部 準教授 4 グループ×7分 約30分	11:15～11:22 11:22～11:29 11:29～11:36 11:36～11:43	ラファエルエリアス (子育て政策室) チームB (子育て政策室) 脇ヶ子・クロスクラブ (シティプロモーション推進室) 未来Cross (シティプロモーション推進室)
3. 審査と集計、休憩	金崎 休憩	11:50 (5分) 5分間	「子育て賞」、「吹田クロス賞」の投票
4. 賞の発表	金崎 プレゼンター：後藤 所長 (参加賞は中先生から授与)	11:55 (5分)	「子育て賞」、「吹田クロス賞」の発表と 賞品の授与 (リーダーが受け取る) 参加賞の授与 (全グループ)
5. 講評	吹田市 児童部 子育て政策室 都市魅力部 シティ プロモーション推進室	12:00～12:03 12:03～12:06	課題提供部署より各グループに対してコメントいただく (1部署3分ずつ・短くなる場合があります。)
6. 閉会	後藤所長…閉会の辞		挨拶 (2分程度)
7. ミニワークショップ	吹田市 受講生	12:10～12:45	課題提供部署と受講生のコメント交換

2025 年度「キャリアデザイン入門Ⅰ」学生の発表と感想

チーム名：ラファエルエリアス

菊川 穂華（木スピ経営）、宇津 徳真（経営）、田中 昇（経営）、小西 隆介（経営）、

中川 日菜乃（木スピ経営）

[スライド 12 枚]

発表の要旨：「学生意見の伝達方法を考える」

「ラファエルエリアス」チームは、学生が市役所の業務内容を十分に理解できておらず、意見を届ける仕組み自体も認知されていないという課題に着目し、情報伝達のあり方を検討した。アンケート結果から、市役所との接点の少なさや SNS 発信の弱さが主な要因であると整理され、特に若者に身近な TikTok を活用した情報発信の必要性が示された。日常的な業務紹介や「あるある」型の動画、キャラクターや著名人との連携など、親しみやすいコンテンツを通じて市役所の仕事を可視化する方策が検討されている。さらに、学校教育と連動した意見集約の仕組みづくりを通じて、学生が市政に関心を持ち、参加するきっかけにつながるのではないかとまとめた。

感想 :

菊川 穂華：どのグループも中間発表からさらに内容が深まり、限られた時間の中で高い完成度の発表ができていてすごいと感じた。自分は意見を整理してスライドや原稿を作成し、チームに貢献できたと思う。短い授業時間では難しいと感じていたが、チームで協力することで想像以上にスムーズに進んだ。市の方から解決案を評価してもらえたことも嬉しく、吹田市について深く知る良い機会になった。

宇津 徳真：発表当日は人が多く緊張すると思っていたが、実際には落ち着いて発表に臨むことができた。チームでは、発言が少ない場面で自分から声を出すことを意識し、話し合いが止まらないよう行動した。一人ではできないことも、班のみんなで協力することでスムーズに進められると実感し、チームワークの大切さを改めて学ぶことができた。

田中 昇：さまざまな班の発表を見る中で、完成度や伝え方に違いがあり、とても勉強になった。自分の班では、意見をしっかり伝えることを意識し、発表にも積極的に関わることができた。特にメンバー同士が協力し合い、支え合う雰囲気があったことで、安心して発表に取り組めたと感じている。

小西 隆介：どのグループも細かな点まで考えられており、聞いていてとても興味深かった。チームでは、まず調べる内容や進め方を整理し、誰もが意見を出しやすい雰囲気づくりを意識した。一人で作業するよりも、役割分担をすることで効率よく進められると感じ、チームで取り組む意義を実感した。

中川 日菜乃：多くの人が前を向いて発言しており、意見がしっかり伝わる発表だったと感じた。チームでは、小さな疑問も具体的に書き出し、スライドにつなげることを意識した。発表前は不安もあったが、最終的には分かりやすい資料を作ることができ、自信につながった。

推薦の言葉 : ・スライドが圧勝だった。発表の態度も良かった。・スライドの完成度が高かった。・スライド発表内容のレベルが他よりも高かった。・スライドの出来栄え、発表が工モい。・スライドの構成、動画、興味、印象。・スライドの仕上がり、発表の聞きやすさ。・具体例の多さやスライドの見やすさです。・スライドが見やすかった。・動画などを使い、スライドも見やすかった。・動画などの引き付け方が上手だったので、頭に入ってきやすかった。・動画を元に解決案を言っていたから。・実例を出してくれていたため、より具体的に受け取ることができました。・例の多さ、若者視点らしくて良かった。・現状分析を行い、仕組みへの提案まで行っていた。・前回の意見交換をもとにアンケートの検証ができている。具体的な案の提示があった。・各学校の代表者が意見交換会に出向くというのは良い案だと思った。参考動画に行政の動画が含まれていた。・提案までの発表がなされていた。・適切な長さで発表できていて、分かりやすかったから。



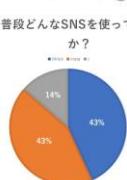
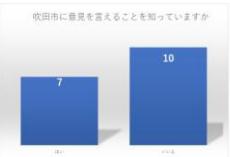
チーム名：チームB

杉崎 敬祐（ホスピ経営）、早田 悠斗（情報）、末富 翔太（情報）

[スライド 9 枚]

発表の要旨：「SNSを使った仕事理解」

「チームB」では、若者が吹田市役所の仕事を具体的にイメージできていない現状を踏まえ、SNSを活用した「仕事理解」の促進をテーマに検討を行った。アンケート結果から、TikTokとInstagramが主要な情報源であることが確認され、特に「バズる」要素を意識した動画発信が重要だと考えられた。市役所業務を疑似体験できるショート動画や、仕事の裏側を見せる構成によって、行政の仕事を身近に感じてもう工夫が提案されている。流行や構成の分析を通じて、単なる広報ではなく「働くイメージ」を伝えるSNS活用の可能性を示した発表となった。

 <p>吹田市 Saitama City</p> <p>SNSを使った仕事理解</p> <p>チームB 末富 早田 杉崎（安田）（小川）</p>	<p>アンケート内容</p> <ul style="list-style-type: none">普段どんなSNSを使ってますか<input type="checkbox"/>tiktok <input type="checkbox"/>insta <input type="checkbox"/>X <input type="checkbox"/>その他・吹田市役所に意見を言えることを知っていますか<input type="checkbox"/>はい <input type="checkbox"/>いいえ・吹田市役所に意見を言ったことがありますか？<input type="checkbox"/>はい <input type="checkbox"/>いいえ	<p>アンケート①</p> <p>普段どんなSNSを使ってますか？</p>  <table border="1"><caption>アンケート①結果</caption><thead><tr><th>SNS</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>tiktok</td><td>43%</td></tr><tr><td>Instagram</td><td>43%</td></tr><tr><td>X</td><td>14%</td></tr></tbody></table> <p>1位 Tiktok Instagram 3位 X</p>	SNS	割合	tiktok	43%	Instagram	43%	X	14%				
SNS	割合													
tiktok	43%													
Instagram	43%													
X	14%													
<p>アンケート②</p>  <table border="1"><caption>アンケート②結果</caption><thead><tr><th>回答</th><th>人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>はい</td><td>2人</td></tr><tr><td>いいえ</td><td>15人</td></tr></tbody></table>	回答	人数	はい	2人	いいえ	15人	<p>アンケート③</p>  <table border="1"><caption>アンケート③結果</caption><thead><tr><th>回答</th><th>人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>はい</td><td>7人</td></tr><tr><td>いいえ</td><td>10人</td></tr></tbody></table> <p>吹田市に意見を言えることを知らない人も学校などの授業で意見を述べたことがあります。</p>	回答	人数	はい	7人	いいえ	10人	<p>アンケート結果①</p> <p>instagramとtiktokが圧倒的な票を得ていた↓</p> <p>Instagramとtiktokをセットで活用している。↓</p> <p>若者にしでもうSNSとしてこの二つは欠かせない</p> <p>instagramとtiktokを活用して何か活動をすればよいのでは？</p>
回答	人数													
はい	2人													
いいえ	15人													
回答	人数													
はい	7人													
いいえ	10人													
<p>アンケート結果②</p> <p>SNSをばずらせないとおすすめにも乗らないし若者に知ってもらえない。↓</p> <p>バズるやり方として流行に乗ることが大事↓</p> <p>吹田市役所の存在ややっている仕事を知ってもらうためにはどのようなジャンルで動画投稿をすれば良いか</p>	<p>タイトル「不動産仲介が見てる世界、今回は外出で物件撮影までの様子」</p> <p>引用:https://x.gd/Gnmp6</p>	<p>この動画がバズっている理由</p> <ul style="list-style-type: none">最初の掴みが視聴者を引き付けているところどころ流行に乗ったコンテンツを取り入れて身近な話題を提供している。奇想天外な動きが視聴者を引き付けている普段見れない不動産屋さんの仕事の内容を見ることで興味や好奇心がそそられる。自分がそこで働いているかのような疑似体験を感じることができます												

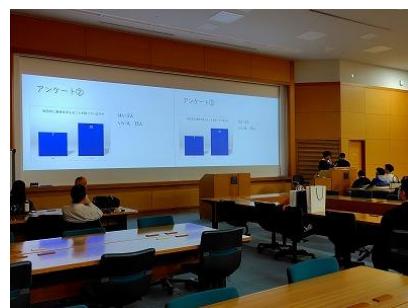
感想：

杉崎 敬祐：どのチームも発表までしっかり仕上げていてすごいと感じた。自分は SNS から一度離れて考える案を出すなど、視点を広げる役割を意識した。発表の構成やスライドを評価してもらえたことが嬉しく、今後一人で資料を作る際の参考にしたいと思った。

早田 悠斗：人数が少ない状況でも事前に対処法を考えていたため、落ち着いて発表できた。原稿作成や SNS の必要性を伝える役割を担い、チーム全員がリーダーシップを発揮できたと思う。スライド作成の難しさを実感すると同時に、教員や市職員が多くの工夫を重ねていることにも気づいた。

末富 翔太：作りたいスライドの要望を整理し、伝えたい内容が分かりやすくなるよう、グラフなどを用いて視覚的にまとめることができたと思う。また、やりたいことを洗い出した上で、作業内容を具体的にスケジュール化して進めてくれた点は、とても助かった。時間が限られていたため、スピード重視の進行になってしまったが、役割分担は明確で、作業自体は効率よく進められたと感じている。一方で、役割を細かく分けすぎたことで、最終的に全体の進捗状況が分かりにくくなってしまった点は反省点である。なお、当日は出席できなかったため、発表本番については振り返ることができなかった。

推薦の言葉：・両チームともデータを取り、根拠を持って提言できていた。より具体的な提言を示せていたのはチーム B の方だった。提案の内容はほぼ同じであったが、具体性が強かつた方を選んだ。・アンケート結果などを分析して考えて選んでいて賢いと思いました。周りを見渡しながら、しっかりと話していく良かったです。・アンケート結果や動画についてしっかりと考察しており、その点が良かった。・原因、課題がより明確で、その課題へのアプローチが分かりやすかった。・課題の意図の理解と問題意識が明確だった。・課題に対しての解決案がよく出せていた気がしました。・再現性があった。・発表で簡潔に伝えたいことが分かりやすかった。・効率の良い説明が分かりやすく、スマートな発表だった。・スライドが見やすかった。・動画にタイトルがあり、分かりやすい。・人数が少ない中、頑張っていた。・チームの人数が少ない中、トラブルに対応する力もあり、各メンバーが何も言わなくても自分の仕事を見つけていたのが良かった。



チーム名：脇ッ子・クロスクラブ

脇迫 慶来（商）、桑田 祐剛（経営）、杉林 跡斗（経営）、岡山 きらり（ホスピ経営）、

野坂 美月（ホスピ経営）

[スライド 9 枚]

発表の要旨：「吹田クロスの認知度向上に向けて」

「脇ッ子・クロスクラブ」チームは、吹田クロスの認知度が低い要因として、日常生活の中で目に触れる機会や参加体験が限られている点に着目し、長期的な視点に立った普及策を提案した。具体的には、地域の小学校と連携し、児童に吹田クロスを描いてもらった作品を交通機関や公共施設に展示する取り組みを提案している。幼少期の体験を通じて市への愛着を育み、口コミ的に認知が広がる効果を狙う点が特徴である。短期的な注目だけでなく、中長期的に市民との接点を増やすことで、吹田クロスを「身近な存在」として定着させる方向性が示された。

The grid consists of a top row of three slides and a bottom row of six slides.

- Top Left Slide:** Title '吹田クロスの認知度向上に向けて' (Promoting Suita Cross Recognition). It lists team members and their roles: 脇迫 慶来 (商), 桑田 祐剛 (経営), 杉林 跡斗 (経営), 岡山 きらり (ホスピ経営), 野坂 美月 (ホスピ経営). It also shows the logo of 大阪学院大学 (Osaka Gakuin University) and the Suita Cross logo.
- Top Middle Slide:** Section '前提' (Assumption). It includes examples like 'アイスバケツチャレンジ' (Ice Bucket Challenge) and details about the survey results. The survey results table is as follows:

高田ゼミ	生川ゼミ	稲田ゼミ	平松ゼミ	柳部ゼミ
16	15	6	7	3
● 知っている	● 知っている	● 知っている	● 知っている	● 知らない

- Top Right Slide:** Section 'アンケート結果' (Survey Results). It shows a bar chart titled '吹田クロスを知っているか' (Do you know Suita Cross?). The chart data is identical to the table above.
- Middle Left Slide:** Section 'なぜ認知度が低いのか?' (Why is recognition low?). It lists reasons: '街中で見かける機会が少ない...ラジオ、新聞、SNS' and '参加・体験機会が少ない...大規模なイベント中心で普段の生活と関わりが少ない'. An arrow points down to the word '限定的' (Limited).
- Middle Middle Slide:** Section '具体的な施策' (Specific Measures). It outlines three steps: STEP1: 地域の小学校と連携, STEP2: 小学生に吹田クロスを描いてもらう, STEP3: 作品を交通機関・公共施設に展示. It includes icons of two people talking, a child drawing, and a station building.
- Middle Right Slide:** Section '長期的效果' (Long-term Effects). It discusses the goal of creating a positive memory in childhood and spreading it to others. It includes the '愛着' (Attachment) logo and the text '市への愛着を育める' (育む).
- Bottom Left Slide:** Section '短期的效果' (Short-term Effects). It shows a table of daily train usage numbers and a note that one day is approximately 350,000 users. An arrow points down to the text '多くの人に見てもらえる' (Visible to many people).
- Bottom Middle Slide:** Section 'まとめ' (Summary). It lists two main points: 1. 地域の小学校と連携し小学生に吹田クロスを描いてもらう, 2. 交通機関・交通施設と協力し展示する. It includes the '即効性・持続力がある' (Highly effective and long-lasting) logo.
- Bottom Right Slide:** Section 'ご聴聽ありがとうございました' (Thank you for your listening). It includes the '脇ッ子クロスクラブ' logo and the 'Suita Cross' logo.

感想：

脇迫 慶来：発表を通して、相手を納得させるには内容だけでなく、数字など客観的な根拠がとても重要なと感じた。本番は緊張したが、自分の話すスピードが速すぎることにも気づき、今後の課題として意識したいと思った。チームでは、発表の軸からぶれないよう意見をまとめ、スライドや原稿が複雑になりすぎないよう工夫した。メンバー同士で意見を聞き合い、雰囲気よく準備を進められたことが、発表の完成度につながったと感じている。

桑田 祐剛：情報収集や話し合いの進行において、メンバーそれぞれに役割を振りながら作業を進めることができ、さまざまな視点を取り入れつつ議論を進められたと思う。特に、全体を見ながら仕事を割り振る場面では、自分なりのリーダーシップを発揮できたと感じている。一方で、金額などの細かい部分につ

いては、さらに深く調べる余地があったと反省している。また、複数の視点をより順序立てて説明できていれば、相手にとってさらに分かりやすい発表になったのではないかと感じた。

杉林 蹤斗：どのチームも発表までしっかり仕上げていてすごいと思った。自分はSNSから一度離れて考える案を出すなど、議論の幅を広げる役割を意識した。発表の構成やスライドを評価してもらえたことが嬉しく、今後の参考にしたいと感じた。

岡山 きらり：中間発表よりも内容を詰めて発表できており、全体として成長を感じた。チームでは、リーダーの行動や考え方を参考にしながら、自分なりに役割を果たすことを意識した。準備期間は短かったが、役割分担がうまくいき、スムーズに発表まで進められた点が良かったと思う。

野坂 美月：チームのみんなと協力して発表できたことが印象に残っている。意見を出し合う中で、自分から発言する力が少しずつ身についてきたと感じた。本番では多くの意見を評価してもらえ、新たな視点にも気づくことができた。今回の経験を今後の発表にも活かしたい。

推薦の言葉：・子ども×体験型は実現可能性が高い。・小学生をターゲットにするなど、より広めるにあたり具体性と実現性があったため選びました。・実現性のある解決案。発表の構成など、しっかりとまとめられていて良かった。・課題が調査により明確で、論点を一つに絞ったこと。それを深掘りして解決手法や普及分析に納得できた。・断トツで一番良かった。現状把握、テーマの掘り下げ、普及啓発までできており、読む人の声が聞きやすかった。とても納得できるプレゼンだった。・吹田クロスの目的（愛着を高める）を踏まえた企画内容だった。・スライドが分かりやすく、内容が深かった。・良かった。内容が分かりやすかった。



チーム名：未来 Cross

渡邊 榎太（経営）、辻本 奏月（商）、北野 もも（経営）、石川 晴翔（経営）、吉野 結花（ホスピタリティ）
[スライド 28 枚]（一部抜粋）

発表の要旨：「吹田クロスの普及方法」

「未来 Cross」チームは、市民のアイデアと市の魅力を掛け合わせ、新たな魅力を創造する取り組みである「吹田クロス」について、認知度が低い現状に着目し、その要因と改善策を検討した。アンケート調査の結果、吹田クロスを「知らない」と回答した層が大多数を占め、特に若年層への情報発信が不十分であることが明らかとなった。そこで、Instagram と TikTok を用途別に使い分け、TikTok で関心を持つてもらい、Instagram で詳しい情報へつなげる発信方法を提案している。動画事例の分析を通じて、ストーリー性や身近さを意識した分かりやすい発信の大切さを整理し、SNS を活用して吹田市の魅力をより分かりやすく伝える工夫をまとめた。

吹田クロスの普及方法

未来Cross

25BA0164 渡邊 榎太 25BA0155 石川晴翔
25C0011 辻本 奏月 25BA0131 北野 もも
25HA0059 吉野 結花

〈目次〉

- ・吹田クロスとは？
- ・原因、課題
- ・考えた改善案
- ・アンケート実施
- ・アンケート結果
- ・まとめ

〈吹田クロスとは？〉

市民のアイデアと市の魅力を掛け合わせ、新たな魅力を創造する取り組み

Suita Cross

〈原因と課題〉

- ・「新たな魅力の創造」抽象的な表現で参加しにくい
- ・SNSを上手く活用できていない

SNSを使いこなす

〈考えた改善案〉

InstagramとTikTokの用途別で利用する
→事例から導く成功法

InstagramとTikTokの用途別で利用する

項目	TikTok	Instagram (リール含む)
ユーザー流入	おすすめ機能で拡散しやすい	フォロワー中心・検索やDMでの流入
文字数制限	約170字	約2,200字
動画形式	動画投稿	ストーリー・リールから選択可
広がり性	高い(国境外にも届きやすい)	やや低い(フォロワー中心)
得意分野	旅・ハウツー・若年層向け動画	美容・食品・ファッションなど映える投稿

実際に人気の動画(TikTok向き)

フォロワー数10.8万人 最大いいね数13万

- ・静止画より動いてる動画を作成

意識している点 ⇒

- ・人物が出る場合はキャラ作りをする
- ・フォロワーとの関わりを増やす
- ・楽しそうに撮影

実際に人気の動画(Instagram向き)

視聴数約150万、いいね9万の大バズ動画

Q 何を心がけているのか

↓↓↓

A 1.ワクワクするような
2.音源との切れ目で画像が変わるように
3.色味を統一
4.一日を表現（朝～夜）大阪の朝と夜の姿をロマンチックに

〈考えた改善案〉

InstagramとTikTokの用途別で利用する
→事例から導く成功法

事例から導く成功法

シェア率高
若者を狙うならTikTok
動画投稿の方が伝わりやすいもの、インパクト大・物語性のある動画投稿はTikTokで投稿

Tiktokでリーチを上げ、Instagramへユーザーが流れてフォローに繋げる

〈原因と課題〉

- ・「新たな魅力の創造」抽象的な表現
- ・SNSを上手く活用できていない

魅力をしっかり伝えて、吹田市の解像度UP！

吹田市の今、昔を比較

比較項目	昔	今
比較年代	昭和	最近
街並み	静かな郊外の街、古い邸宅	住む、逛ぶ、働く人気都市
価値観	都心へ働きに行く、地元に遊び場、吹田市内で解決、若い家族増加、芳醇なし	街並みで過ごす、公園は走る場、スーパーで解決、共働き増加、近所付き合いが深化
生活スタイル	休日車でスーパー、公園は走る場、スーパーで解決、共働き増加、近所付き合いが深化	ショッピングモール、家でゲーム、公園（小学生）
遊び場所	商店街、団地の公園	ショッピングモール、家でゲーム、公園（小学生）

〈アンケート実施〉

Google フォームを使い、合計149人にアンケートを実施



感想：

渡邊 榎太：中間発表と比べ、どのチームも内容が大きく改善されていて驚いた。自分はアンケート関係の作業を中心に取り組み、発表準備に貢献できたと思う。原稿を用意することの重要性や、動画制作の負担についても考えるきっかけになり、次につながる学びが得られた。

辻本 奏月：話し合いを進める中で、ハブニングも想定した事前準備の大切さを感じた。議論では話を整理し、みんなの意見を簡潔にまとめることを意識した。また、他の人の意見を広げて話題を深める役割を担えたと思う。多くのアイデアが出る中で方向性がずれる場面もあったが、助け合いながら修正できた点は良かった。SNSに頼りすぎず、幅広い世代を意識した視点も必要だと感じた。

北野 もも：発表を通して、案を提示する際には「なぜそう考えたのか」という原因や根拠を具体的に示すことが説得力につながると気づいた。チームでは意見の整理やスライド作成、全体の流れ確認を担当した。それぞれが主体的に動き、リーダーシップを発揮できたことで、納得感のある発表ができたと思う。

石川 晴翔：原稿やスライド作成にも関わり、発表は全体として良い感触だった。アイデアを出したり話のきっかけを作ったりする中で、チーム全体で多くのリーダーシップが発揮されていたと感じた。他の班の発表からも新しい視点を得ることができ、楽しく学びの多い回だった。

吉野 結花：資料が1枚足りないというハブニングがあったが、何とか発表することができた。話し合いには積極的に参加し、チーム全員が意見を出していた点は良かったと思う。リーダーを中心に役割分担ができており、協力して進められた。吹田市役所の方とのミーティングでは、実現が難しい点や改善案について助言をもらい、次回に向けて準備すべき点が明確になった。

推薦の言葉：
 ・（情報量）調査量がすごい！
 ・両チームとも具体的な根拠をしっかり取ってプレゼンができていた。その内容がしっかりとしており、より広いデータ収集をしていた未来 Cross の方が説得力があった。
 また、提言が推測の域で終わらず、データ分析の上で示せていたことも評価できる。
 ・どちらも良かったです！現状の問題点に対し深く考察されており、事例も単なる紹介にとどまらず、インタビュー等を取り入れ、より説得力のある発表になっていました。
 ・さまざま事例を基に、分かりやすく説得力がある。短時間でよく調べたなと思います。
 ・実際にバズっている人にインタビューをしていた。
 ・スライドが分かりやすい。実際にアンケートもしたりしていて良かった。
 ・スライドの完成度が高く、スライドをそのまま読むのではなく自分たちの言葉で伝えていた。
 ・聞き取りやすいスピードで内容がしっかりしていた。
 ・具体的な提案力、紹介してもらった動画も心ひかれるものに感じた。
 ・急なアドリブにも対応できていた。
 アンケートのグラフをもとに説明できていて分かりやすかった。
 ・トラブルがあったけど持ち直しました。
 2つを組み合わせるアイデアが良かった。

まとめ

- 過去の事例を参考にしてSNSを用途別に使う
- 吹田市の新たな魅力を発信する
- 学校や大学の協力の元授業をする
- イベント事により多く参加する
- より面白い、綺麗な景色、タメになる事を発信する

❖ 講評 ❖

【吹田市 児童部 子育て政策室様】

ラファエルエリアス

解決策を考えるにあたり、クラス内で2度アンケートを実施されており、行動力と熱意を感じました。

発表の中で動画をいくつも再生し、紹介していただいたため、発表を聴いているだけで、自然と解決策のイメージが湧いてきました。解決策の中には、動画作成の具体的な提案も含まれており、すぐに取り組んでいけるものとなっていました。また、他市の先進的な取組である子供会議なども解決策として挙げられており、情報収集能力の高さにも感心しました。

チームB

実際にクラス内でアンケートを実施し、その結果を分析した後に、解決策を提案いただいたため、とても説得力のある発表内容でした。また、アンケート結果をグラフで示されていましたため、情報を視覚的に捉えることができ、発表資料も非常にわかりやすかったです。

今回は市役所に興味を持つてもらうことに焦点を当て、提案発表していただきましたが、子供・若者が市役所に意見を伝える方法や仕組みにも触れていただけたと、さらに良かったと思います。



上段：課題解決発表会にご来場いただいた吹田市職員の皆様、下段：発表に対する講評の様子

❖ 講評 ❖

【吹田市 都市魅力部 シティプロモーション推進室様】

脇ツ子・クロスクラブ

初めから最後までプレゼンテーションの流れが整理されており、内容が非常に分かりやすく、納得感のある発表でした。テーマを丁寧に掘り下げ、課題の原因を「認知度と体験機会」と明確に設定し、それに対する具体的な解決策を提示していた点が印象的でした。

特に、幼少期の記憶に着目した小学校での体験授業や展示の提案は、実現可能性も高く、非常に良い視点だと感じました。リーダーを中心にメンバーが一致団結して取り組んでいる様子も伝わり、チームとしての完成度の高さがうかがえました。

また、啓発において子どもをターゲットとする手法自体は一般的であるものの、本取組においては、これまで十分に重視してこなかった視点であり、改めてその重要性を認識させられる提案でした。SNSというテーマにとらわれ過ぎることなく、まずはクロスの意義や認知度を高めようとしていた点も本質的で、説得力がありました。

さらに、公共交通機関を活用するという視点は魅力的である一方、実際の運用にあたってはコスト面などの課題も想定されるため、今後の検討課題として整理していく必要があると感じました。

未来 Cross

大学生ならではの柔軟な発想に加え、学外も含めたアンケート調査など、行動力のある取組が非常に印象的でした。4週間という限られた期間の中で、ここまで企画をまとめ上げられた点も高く評価できます。特に、高校生を含め幅広い層から意見を収集し、どの提案についても根拠をもとに検討されており、説得力のある内容でした。

また、抽象的になりがちな「新たな魅力を創造する」というテーマについても、チームなりに課題を整理し、多くの人に伝わる形へと具体化しようと工夫されていた点は、これまで明確に言語化しきれていた懸念点を改善案とあわせて示していただく内容となっており、今後の取組を検討するうえで非常に参考になりました。

さらに、サンプル動画の配信先に意見を伺うなど、外部の声を積極的に取り入れようとする姿勢も評価できる点です。一方で、他自治体のSNSでの情報発信事例や、動画表現の工夫について、良い事例やポイントを併せて紹介いただけすると、より具体性が高まつたのではないかと感じました。

また、実際に動画を制作・運用する際には、時間や技術面での課題が生じる可能性もあるため、その点については今後、慎重な検討が必要だと感じました。

¤ 授賞式 ¤



「子育て賞」に選ばれたチーム「ラファエルエリアス」



「吹田クロス賞」に選ばれたチーム「未来 Cross」



課題解決発表会終了後の意見交換会の様子



中 則夫先生



吹田市障がい者授産製品常設展示販売店

「はぴすま」（賞品を購入）



学生サポーター制度の導入と教育効果

「キャリアデザイン入門Ⅰ」官学連携PBLクラスでは2025年度より、上級生が下級生の学びをサポートする取り組みを開始しました。この取り組みは、2025年3月4日（火）に開催した2024年度第2回FD・SD講演会において、甲南女子大学教授の佐伯 勇先生より紹介いただいた「全員発揮型のリーダーシップ教育」の実践事例を参考に導入したものであり、FD・SDで得た知見を授業改善へと具体的につなげた取り組みです。特定の学生だけがリーダーシップを担うのではなく、学生一人ひとりが役割を持ち、互いに支え合いながら学びを深めることを目的としています。

2025年度は、国際学部2年次生の籾中 洋太君、短期大学部経営実務科2年次生の小川 果音さん、安田 奈央さんの3名が学生サポーターとして授業に参加しました。学生サポーターは、1年次生のグループワークでの話し合いの補助や資料作成のアドバイスなどを通して、発表に向けた学修を継続的に支えてきました。課題解決発表会当日も、進行補助のサポートに携わり、発表の様子を見守りながら、学生が安心して発表に臨める環境づくりに努めました。

また、課題解決発表会においては、これまでのサポート活動への感謝の気持ちを込めて、担当の中先生から大学オリジナルグッズが学生サポーターに贈呈されました。発表会終了後も引き続き授業に出席し、第13回目の最終授業まで寄り添いながら1年次生の学びを支えています。ここでは、こうした活動を担った3名の学生サポーターに、授業を通して感じたことや学びについて感想を聞いてみました。

籾中 洋太君：

僕はサポートをする中で、アドバイスをすることが難しいなと感じました。アドバイスは、踏み込みすぎるとグループの課題解決に向けての方向性を決めつけてしまう場合があるので、その線引きが難しかったです。人それぞれに課題の解決方法があるから、その考え方や意見を否定するように聞こえないよう、考えて発言することを意識しました。最初の方は、グループでの会話があまり活発でなかったり、うまく進むのか不安に感じることもありましたが、後半の方はどのグループもしっかりと発言し合い、成長を感じられてよかったです。

小川 果音さん：

最初は1年次生とどう関わったらいいか分からず不安に思うこともありましたが、徐々にみんなと話せるようになり、最終的にはだいぶ打ち解けることができました。この数ヶ月の間で1年次生たちの成長を近くで感じることができ、指導することやサポートすることの楽しさを感じました。ただ、補助する役割としてどこまで入ってよいかの境目が難しく、1年次生の成長につながるように考えてサポートすることが今後の課題だと感じました。これから社会人になって、後輩ができた時に今回の経験を活かしたいです。

安田 奈央さん：

サポーターとしてどこまで踏み込めばいいのかがすごく難しかったです。私自身、普段はグループワークにおいて、みんなを引っ張るタイプなので、発言なども積極的に行いますが、課題に向き合うのは自分ではないので、アドバイスの線引きが難しく、介入しそぎてしまうとアシスタントではなくなってしまうので、引き際が難しくなった時もありました。遠くから見守ることで1年次生が自分たちで問題

を解決していき、成長していくことができたんだと思いました。全く補助をしないわけではありませんが、踏み込みすぎるのもよくないとこの授業を通して学ぶことができました。

この取り組みを通じて、1年次生にとっては、話し合いや発表準備の場面で自ら考え、行動する機会が増え、学修に対する主体性の向上が見られました。一方、2年次生である学生サポーターにとっても、相手の理解度や状況を踏まえて助言・支援を行う経験を通じて、協働的に学びを支える力や責任感を育む機会となりました。授業内では、役割を固定せず、場面に応じて関わり方を変えながら学びを支える姿が見られ、全員が何らかの形で貢献する「全員発揮型」の学びが実践されていました。FD・SDで得た学びが学生の行動変容として確認できた点は、この取り組みの大きな教育的成果といえます。



学生サポーターの活躍の様子

大阪学院大学「吹田市との官学連携PBL」に寄せて



都市魅力部長 脇寺 一郎 氏

吹田市のシティプロモーションでは、まちへの愛着と誇りの醸成に向け、市の魅力を積極的に発掘・発信する取組を進めております。

今回の PBL を通じて、学生生活の中では気づきにくい吹田市の取組や、地域におけるさまざまな活動に触れていただく機会になったのではないかと存じます。

本授業の学びをきっかけとして、これらの取組への理解をさらに深めていただくとともに、自ら主体的に市政や地域活動に関わることで、本市とのつながりをより一層深めていただければと考えております。

また、今後も学生が多いまちという本市の魅力を生かし、引き続き、学生の皆様から様々な分野においてアイデアをいただけますと幸いです。

結びに、教育開発支援センター後藤所長、中先生をはじめ、ご協力いただきました関係者の皆様に心からお礼申し上げますとともに、貴学と本市との連携が一層深まりますことをご期待申し上げます。



2025年度
吹田市 × 大阪学院大学
官学連携 PBL

大阪学院大学教育開発支援センター
吹田市岸部南 2-36-1 17号館 3階